

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：54401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23501045

研究課題名(和文) キャリアチェンジの視点からの女性技術者のキャリア構築過程の解明とその検証

研究課題名(英文) The research of process of career development of women in science and engineering from the perspective of career changes

研究代表者

中谷 敬子 (Nakatani, Keiko)

大阪府立大学工業高等専門学校・その他部局等・准教授

研究者番号：60295714

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、女性技術者のキャリア構築、すなわち、ワークライフバランスを維持しながらキャリアを構築する活動を、個人的利益と社会的利益という異なるレベルの事柄が並行して起こるミクロマクロ問題ととらえ、そのような環境でのキャリア構築を、短い時間スパンで発生するキャリアチェンジの積み重ねる過程における心理と、その結果としてのキャリア選択を、「自己アイデンティティの再帰的理解とフィードバック」の視点から調査・分析することを試みた。女性技術者のキャリア構築に関する継続的な聞き取り調査により、キャリア構築の家庭での心的、行動学的な変化を詳細に分析し、えられた知見を考慮した場を設計し実践した。

研究成果の概要(英文)：We study that the process of vocational experiences of women in science and engineering. Suggestions are made regarding the next generation of research on women and career development.

研究分野：科学教育

科研費の分科・細目：工学教育

キーワード：キャリア支援 女性技術者 内的キャリア 女性研究者 キャリア構築過程 キャリア心理学

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国の社会問題となっている若年層の離職率の高さの原因を明らかにし、それを勤労意欲を高める対策を講じるためには、意思決定過程の解明するキャリア研究が必要である初職を貫いてキャリアを継続する場合の研究は数多く実施されている。これらのキャリア研究の多くは、終身雇用制を前提にして議論されている一方、キャリアチェンジの研究、特に、キャリア・チェンジの過程そのものの研究はまだ緒についたばかりである。一般に、キャリアチェンジは、自問、試行、自我の再確認からなるループを脱出し、自身に対する認識と選択行動の矛盾がなくなることにより実現するといわれるが、この過程は、社会心理学がいう「本人が意識できない」非意識的・自動的プロセスとして実現されるため、十分に理解されていない。

本研究では、詳細な聞き取りと調査によって、キャリア構築の中の「陽でないキャリア・チェンジ」において、心と行動がどのように関連するのかを明らかにする。さらに、このようなキャリア構築過程の分析結果を、近い将来に実践に役立てるために必要なプロトタイプとして、自らの意思のもとに、自身にとって適切なキャリア継続、あるいは、キャリアチェンジをすることを支援する、擬似的体験を通じ組織の枠組みを越えた「自律的な場」の設計、継続的なワークショッププログラムを提案・実施する。

2. 研究の目的

本研究課題では、女性技術者のキャリア構築、すなわち、ワークライフバランスを維持しながらキャリアを構築する活動を、個人的利益と社会的利益という異なるレベルの事柄が並行して起こるミクロ・マクロ問題ととらえ、そのような環境でのキャリア構築を、短い時間スパンで発生するキャリアチェンジの積み重ねとしてとらえ、その過程における心理と、その結果としてのキャリア選択を、「自己アイデンティティの再帰的理解とフィードバック」をメタ理論として、適応的視点から調査・分析することを目的としている。従来のキャリア研究は、高度の専門性を有する優れた研究者によって理論的に高められている。一方で、工学教育の現場からの視点、あるいは、実際の女性技術者の視点からの議論は必ずしも十分になされているとはいえない。そこで、本研究では、応募者のこれまでの経験と自身の女性技術者・研究者としてのキャリア構築経験から、特に、今、喫緊の課題である、ワークライフバランスを維持しつつキャリア構築（継続）をめざす女性技術者の就労継続に伴う問題点とその解決手段としての「場」の設計を行う。

3. 研究の方法

本研究は、具体的には、大きな二つの柱を持

つ。一つは、ワークライフバランスに視点を置きながら、キャリア構築過程でのメンタルヘルスの現状を調査し、起こっている問題を明らかにする。二つ目は、キャリア構築過程の女性技術者が、キャリア構築の縦横にわたる情報交換・経験的知識の習得が可能となるようなワークショップ・プログラムを提案・実践し、フィードバックすることである。この目的を達成するために、適応的視点からアプローチする。

4. 研究成果

幅広い年代の女性技術者のキャリア構築、キャリア・チェンジの体験談の聞き取りを通じて、その心と行動の関連を、詳細に調査した。多様な立場の対象者が、実際の行動としてキャリアチェンジ（転職・退職）するのではないが、内的にこれまでのキャリア構築の指針を変更する「陽でないキャリアチェンジ」をどのように実践したかを、その振り返りだけでなく、継続的な聞き取り調査とフォーラムを通じて、行動を詳細に観察することにより分析した。これにより、共通するキャリアチェンジの基本戦略を明らかにした。

平成 23 年度は、若年層の女性技術者を対象としたキャリア構築過程の聞き取り調査を実施し、特にワークライフバランスについての現状とそのキャリア構築への影響、および、キャリア構築の戦略の特徴を抽出した。女性に限らず、若年期から始めた就労を継続していく過程で、ライフステージが変わり、その就労スタイルだけでなく、就労への考え方、興味・関心も移って行くことを明らかにした。女性の場合は、特に、結婚・出産・育児といったライフイベントの影響を大きく受ける。こうした変化の中で、就労初期の初心を貫こうとすればするほど、自身が理解している自分が求めている目的と、本当に求めている・環境に適応した目的とがずれているために、ワークライフバランスや、メンタルヘルスに支障をきたす例も見られた。

平成 24 年度は、23 年度に行った調査の対象を、若年層から、中堅層、および、それ以降の世代に移して、同様の聞き取り調査を行った。中堅層、および、それ以降の世代では、ワークライフバランスよりも、メンタルヘルスが、キャリア構築により大きな影響を与える。また、長いキャリア構築の中で、キャリアチェンジの機会も多くなった。実際の行動との相関、まさその間のギャップについて、詳細に調査する。23 年度と同様に、繰り返し聞き取りを行うことで、若年層とは異なるキャリア構築の特徴の有無について観察した。平成 25 年度は、女性技術者、および、将来の女性技術・研究者になるであろう理系女子学生が共に参加するキャリア支援の場を設計、実施した。キャリア発達にかかるワークショップの形式をとりながら、十分な意見交換の機会を用意することにより、それぞれが抱える事例について、じっくり向き合う

機会を提供できた。これにより、継続的な場づくりにつなげるために必要な環境整備とキャリア構築の際の戦略の妥当性を実証するために、彼らのキャリアチェンジ、又は、キャリア継続への心的な刺激を与えうるワークショップ・プログラムを設計し、検証した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

1. "長期遠隔コースによるティーチング・ポートフォリオの作成"、金田忠裕、北野健一、中谷敬子、井上千鶴子、葭谷安正、第 16 回高専シンポジウム(米子)、講演要旨集、p.290、(2011)。
2. "ティーチング・ポートフォリオ作成に関する研究"、北野健一(大阪府立大学高専)、金田忠裕、中谷敬子他、大阪府立工業高等専門学校研究紀要 44、(2011)。
3. "ティーチング・ポートフォリオ：「思いの共有」から始める実質的なFD活動"、北野健一、中谷敬子、金田忠裕、井上千鶴子、土井智晴、中田裕一、梅本敏孝、葭谷安正、平成 23 年度全国高専教育フォーラム(鹿児島大学)、教育研究活動発表概要集、pp.87-88、(2011)。
4. "ティーチング・ポートフォリオ「思いの共有」から始める実質的なFD活動"、北野健一、中谷敬子、金田忠裕、井上千鶴子、河野学、土井智晴、早川潔、中田裕一、梅本敏孝、葭谷安正、平成 23 年電気学会 電子・情報・システム部門大会(富山大学)、講演論文集(CD)、pp.36-39、(2011)。
5. "ティーチング・ポートフォリオ作成におけるメンターの技能に関する一考察-短期集中コースを開催して-"、北野健一(大阪府立大学高専)、金田忠裕、中谷敬子、中田裕一、井上千鶴子、葭谷安正、大阪府立工業高等専門学校研究紀要 45、(2012)。
6. "ティーチング・ポートフォリオ作成時におけるメンタリング技能に関する一考察-長期遠隔コースを開催して-"、金田忠裕(大阪府立大学高専)、北野健一、中谷敬子、中田裕一、井上千鶴子、葭谷安正、大阪府立工業高等専門学校研究紀要 45、(2012)。
7. "高専における教育実習とは～府大高専初の実習生受け入れと指導の記録～"、北野健一、中谷敬子、湯谷博、藤原徳一、大塚信之、日本高専学会第 18 回年会講演会(近畿大学高専)、講演論文集、pp.59-60、(2012)。
8. "アカデミック・ポートフォリオ作成段階における AP チャート作成の意義"、金

田忠裕、中谷敬子、北野健一、栗田佳代子、日本高専学会第 18 回年会講演会(近畿大学高専)、講演論文集、pp.61-62、(2012)。

9. "アカデミック・ポートフォリオの作成による教育研究改善"、北野健一、金田忠裕、中谷敬子、東田卓、第 18 回高専シンポジウム(仙台高専)、講演要旨集、p.316、(2013)。

[学会発表](計 14 件)

1. "長期遠隔コースによるティーチング・ポートフォリオの作成"、金田忠裕、北野健一、中谷敬子、井上千鶴子、葭谷安正、第 16 回高専シンポジウム(米子)、講演要旨集、p.290、(2011)。
2. "ティーチング・ポートフォリオ：「思いの共有」から始める実質的なFD活動"、北野健一、中谷敬子、金田忠裕、井上千鶴子、土井智晴、中田裕一、梅本敏孝、葭谷安正、平成 23 年度全国高専教育フォーラム(鹿児島大学)、教育研究活動発表概要集、pp.87-88、(2011)。
3. "ティーチング・ポートフォリオ作成におけるメンターの技能に関する一考察-短期集中コースを開催して-"、北野健一(大阪府立大学高専)、金田忠裕、中谷敬子、中田裕一、井上千鶴子、葭谷安正、第 17 回日本高専学会年会講演概要集、(2011)。
4. "ティーチング・ポートフォリオ作成時におけるメンタリング技能に関する一考察-長期遠隔コースを開催して-"、金田忠裕(大阪府立大学高専)、北野健一、中谷敬子、中田裕一、井上千鶴子、葭谷安正、第 17 回日本高専学会年会講演概要集、(2011)。
5. "学生の視点からの技術者のためのキャリア支援の評価に対する一考察"、中谷敬子(大阪府立大学高専)、松浦仁、第 17 回日本高専学会年会講演概要集、(2011)。
6. "内的キャリアの視点からキャリア支援を目的とした女性技術者のための場に関する一考察"、中谷敬子(大阪府立大学高専)、黒瀬友佳子、大久保有香、山本敦也、第 17 回日本高専学会年会講演概要集、(2011)。
7. "ティーチング・ポートフォリオ「思いの共有」から始める実質的なFD活動"、北野健一、中谷敬子、金田忠裕、井上千鶴子、河野学、土井智晴、早川潔、中田裕一、梅本敏孝、葭谷安正、平成 23 年電気学会 電子・情報・システム部門大会(富山大学)、講演論文集(CD)、pp.36-39、(2011)。
8. "「日本型」アカデミック・ポートフォリオ～日本初の単一高等教育機関における作成ワークショップを開催して"、北野健一、金田忠裕、中谷敬子、梅本敏

- 孝, 前田篤志, 栗田佳代子, 日本工学教育協会 平成 24 年度工学教育研究講演会(芝浦工業大学), 講演論文集(CD) (2012)。
9. "アカデミック・ポートフォリオ作成段階における AP チャート作成の意義", 金田忠裕, 中谷敬子, 北野健一, 栗田佳代子, 日本高専学会第 18 回年会講演会(近畿大学高専), 講演論文集, pp.61-62, (2012)。
 10. "高専における教育実習とは～府大高専初の実習生受け入れと指導の記録～", 北野健一, 中谷敬子, 湯谷博, 藤原徳一, 大塚信之, 日本高専学会第 18 回年会講演会(近畿大学高専), 講演論文集, pp.59-60, (2012)。
 11. "学生参加型の内的キャリアを軸としたキャリア支援ワークショップの実践について", 中谷敬子, 日本高専学会第 18 回年会講演会(近畿大学高専), 講演論文集, (2012)。
 12. "高専卒業生の調査研究 - 女子卒業生の離職及び再就職の動向 -", 内田由理子, 阿部恵, 浦家淳博, 大槻香子, 角谷英則, 中谷敬子, 三橋和彦, 山本孝子, 日本高専学会第 18 回年会講演会(近畿大学高専), 講演論文集, (2012)。
 13. "アカデミック・ポートフォリオの作成による教育研究改善", 北野健一, 金田忠裕, 中谷敬子, 東田卓, 第 18 回高専シンポジウム(仙台高専), 講演要旨集, p.316, (2013)。
 14. "アイデンティ構築期のキャリア支援の視点からの技術者育成", CC15 フォーラム講演概要集(東京)p.1-2, (2013)。

〔図書〕(計 1 件)

1. "実践 ティーチング・ポートフォリオ スターターブック-実質的な教育改善活動を目指して(大阪府立大学高専ティーチングポートフォリオ研究会編) 2011 年 12 月(エヌティーエス)。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

1. 【招待講演】"子どものはげは無限大ーダブルハッピーで楽しもう！ー", 中谷敬子, 平成 23 年度和泉市男女共同参画社会づくり講座「科学の心を育てよう」, (2011)。
2. 【寄稿依頼】"元気!生き生き大阪府立大学ロールモデル集 III", 女性研究者支援センター発行, (2012)p.22-23。
3. "これからの工学部 女性を増やすには何が必要か", 北野健一, 金田忠裕, 中

谷敬子, 東田卓, 日本工学教育協会第 61 回年次大会シンポジウム資料集, (2013)。

4. 【寄稿依頼】"「想いを伝える」必要なスキル", 日刊工業新聞(2013.4.24)(2013)p.26。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中谷敬子(大阪府立大学工業高等専門学校)

研究者番号: 60295714

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし